

社傳祭神大已貴命とあれど是舊神官どもの注進に因りて記されたるならん歟其實は如此社傳は決して無きことなり
列は烈と書く例なり此例古書に多かり

伊射奈岐神社

祭神 伊邪那岐神

神位 清和天皇貞觀元年正月二十七日甲申奉_レ授_二大和國從五位下伊射奈岐_一神_{從五位上}

祭日 九月十日

社格 村社

所在 柳本村字天(磯城郡柳本村大字柳木)

綱越神社

祭神

今按越前國坂井郡奈高志神社ありて同神と聞ゆれど越前なるも祭神詳ならねば考ふべき由なし

神位 清和天皇貞觀元年正月二十七日甲申奉_レ授_二大和國無位綱越神_{從五位下}

祭日 六月三十日

社格 村社(官幣大社大神神社境外攝社)

所在 三輪村大神々社境内字(磯城郡三輪町大字三輪)

稔代神社

祭神

祭日

社格

所在

穴師大兵主神社

祭神

今按稔代神社穴師大兵主神社並び坐るを以て上の穴師巻向兩社と並たるに合せて考ふるに稔代は御食津神を祭り大兵主は素盞鳴尊を祭れるならん姑く附て後考を俟つ

祭日

社格

所在

若櫻神社

祭神

今按日本書紀_{履中}三年十一月辛未天皇泛兩技船于磐余市磯池與皇妃各分乘而遊宴膳臣余磯獻酒時櫻花落于御蓋天皇異之則召物部長眞膽連詔之曰是花也非時而來其何處之花矣汝自可求於是長眞膽連獨尋花獲于掖上室山而獻之天皇歡其希有即爲宮名故謂磐余稚櫻宮其此之緣也是日改長眞膽連之本姓曰稚櫻部造又號膳臣余磯曰稚櫻部臣と云若櫻部氏兩姓あるを以て何れの祖を祭れるか詳ならず

祭日

社格 (村社明十市郡谷村)

所在 櫻井谷村_{今屬十}(磯城郡櫻井町大字谷)

鍋倉神社

祭神 大倉比賣命

祭日 十一月二十三日

社格 村社

所在 初瀬村_{字奥宮下}(磯城郡初瀬町大字初瀬素盞雄命神社)
(合併)

高屋安倍神社二座

祭神 安倍氏祖神

今按姓氏錄阿部朝臣孝元天皇々子大彥命之後也また布勢朝臣阿部朝臣同祖穴人朝臣阿部朝臣同祖大彥命男彥背立大稻腰命之後也高橋朝臣も同祖なる由みえたり本社に祭れる三座は其主とする所必ず大彥命なるべけれど其二座は詳ならず神社殿録に引土御門家譜云孝元天皇々子大彥命後胤倉橋麻呂一名内麻呂號高屋明神とある内麻呂を祭ると云るは信がたけれど阿倍氏の祖を祭れることは此文にても一定なり

神位 文德天皇天安元年八月庚辰在_二大和_一國_{從五位下}高

大和國 城上郡

屋安倍神_{授_二從五位上_一}二年四月戊申在_二大和國_一從五位上高屋安倍神_{授_二從四位下_一}朱雀天皇天慶三年九月四日丙寅奉_レ授_二大和國正四位下高屋安倍神_{從三位}_{下日本紀略}

祭日

社格 (十市郡谷村若櫻神社)

所在 櫻井谷村_{若櫻神社境内}(磯城郡櫻井町大字谷若櫻神社)
今尚稱高屋明神とあり

今按大和志に父老云櫻井谷邑管内安倍松本山近移若櫻神社今尚稱高屋明神とあり

宗像神社二座

祭神 宗津比賣命

今按類聚三代格寛平五年十月二十九日大政官符應充行宗像神社修理料賤代儀丁事從良賤十六人正丁在筑前國宗像郡金崎充行儀丁八人大和國城上郡四人高市郡二人十市郡二人右得波社氏_{從五位下}守右少辨兼大學頭高階真人_崇等解狀伴件神坐大和國城上郡之内坐筑前國宗像郡從一位勳八等宗像大神同神也舊記云是天照大神之子也大神勅曰汝三神降居道中奉助天孫爲天孫所崇祭者今國家每有禱請奉幣件神是其本緣也云云とあるにて祭神明か也さて高